

## 第140回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和5年10月5日(木) 13時30分～14時50分

### 2 審議事項

- (1) 「月例給及び期末・勤勉手当の引上げ等にかかる長崎大学職員給与規程等の一部改正」の方針について

理事(総務担当)から、資料3に基づき、国家公務員の月例給及びボーナスの引上げの人事院勧告等が行われたことから、その概要について報告があった後、国家公務員の給与並びに長崎県の給与改正の検討状況等を参考としながら検討することについて説明があり、審議の結果、了承された。

また、今年度についても遡及適用は行わず、規程改正日以後から給与の改定を行う予定であることの説明があった。

- (2) 役員の退職手当額の算定に係る業績勘案率について

理事(財務・施設担当)から、資料4に基づき、役員の退職手当は、役員の在職期間の業績に応じ、経営協議会の議を経て、学長が退職手当額を増額し、又は減額することができることから、9月30日付けで退職した役員の在職期間の業績勘案率について説明があった。

それを受けて、委員から、河野前学長は、長崎大学にグローバルヘルス、プラネタリーヘルスという概念を持ち込み、長崎大学の取り組みを世の中に強く発信した功績を踏まえ、業績勘案率を0.1加算できないか、また、それを補佐した福永前理事も業績勘案率を0.1加算できないかとの意見があった。

審議の結果、業績勘案率を河野前学長は1.3、福永元理事は1.2とすることで役員会へ提案することとなった。

- (3) 国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等について

理事(総務担当)から、国立大学法人ガバナンス・コードについて、令和5年10月末までに本学の適合状況等を社会に公表するに当たって、その報告書及び適合状況等について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

なお、概ね以下のような意見があった。

(◎は学外委員、○は大学側の発言)

◎ガバナンス・コード1-3の中期的な財務計画に関する適合状況において「成果を中心とする実績状況に基づく資源配分」(共通指標)を踏まえた傾斜配分を実施していることが記載されているが、やはり長崎大学が目指す姿にどのような戦略をもって、どのように近づけていくかが重要だと考える。また、共通指標に関して言えば、これらの指標に基づく予算配分は全体の中では一部のものではあるが、共通指標に照らした成果を出しやすい部局、出しにくい部局もあると思われるため、配分するに当たっては部局とコミュニケーションをとり、インセンティブにつながっていくようにすることが経営的にも重要なのではないかと考える。

○共通指標に関して言えば、長崎大学は幸いなことにプラスで配分を受けている。指標の項目の中では、若手教員の採用の伸び率が悪く、若手を含めてどのようにインセンティブを考えていくかは非常に重要と考えている。

○また、学生の卒業後の進路状況も評価が低かったが、学校基本調査の数値で3年間の平均を使って評価されており、年々改善できているので、12月の予算編成時には良い報告ができるだろうと考えている。そもそも共通指標自体としても学内で共通の認識として持っていなければ対策もとれないため、その点も学内で共有している。

◎卒業生の進路というのは把握されているのか。

○把握はしているが、博士後期課程の評価が少し低い。その要因としては、外国人留学生が帰国後どうしているのかをグリップできてない点にある。

○中間報告では、把握率はかなり上がっているが、留学生は卒業時期がずれており、把握できていない点も原因にある。ただ、3年間の平均は上がっているため、今後良い結果が報告できると考えている。

◎海外だと、留学後に帰国しても、卒業した大学あるいはその国と連携するという認識がある。

○長崎大学もヨーロッパ、アフリカ、ASEANなどにアルムナイ・ネットワークをもっているが、それを利用しながらさらに強化していき、しっかりとしたネットワークを構築していきたい。

### 3 報告事項

#### (1) 令和6年度 文部科学省概算要求について

理事（財務・施設担当）から、資料6に基づき、令和6年度国立大学法人運営費交付金概算要求に係る文部科学省から財務省への要求内容について、報告があった。

#### (2) 令和4事業年度財務諸表の承認について

#### (3) 最近の大学の主な動きについて（大学HP掲載トピックスのまとめ）

上記(2)(3)の報告事項については、資料配付のみとした。

### 4 その他

#### (1) 長崎大学に対するご意見について

議長から、今後の経営協議会における協議事項の参考とするため、意見交換を行いたい旨発言があった。意見交換の中で、概ね以下のような意見があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

◎日本は今大きな変化の挑戦を受けていると思っている。その流れに長崎大学の各学部がどのように飛び込んでいくかが問われているのではないかと。

また、今、九州は、台湾から半導体の工場が誘致されるなど世界が注目しており、九州全体が日本の成長の起爆剤になりうると考えている。これから外資や日本企業が九州に進出してくると予想され、九州の全大学にチャンスが出てきているので、工学部、情報データ科学部、経済学部などで対応できるように、ブレークダウンしていただきたい。

○産学連携において、スタジアムシティの話もあるが、アカデミアとしてどう貢献していくか、やはり人材育成が重要と考える。

最後に、議長から、今年各部局の若手を集めて、将来構想ワーキンググループを開催したが、そのメンバーに経営協議会に列席してもらいたいと考えている旨発言があった。

- (2) 次回の経営協議会の開催予定について  
議長から、次回は令和6年1月22日開催予定である旨説明があった。

(以上)